

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp 谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
 田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
 芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp 保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

この春

定年退職したあなたへ

春。新しい生活がスタートする季節です。芽吹きの時季に、今回は、定年などで退職された男性に向けて、地域で充実した毎日を過ごしている先輩のメッセージを送ります。



毎日が日曜日になったら・・・

西原町在住の田巻威彦さん(72歳)は、現役時代は通信機器の技術者として従事し、当時地域とのつながりは全くありませんでした。定年退職する2年ほど前に参加した退職準備セミナーの「毎日が日曜日になったらどう過ごしますか?」という講師の言葉をきっかけに、自分の住んでいるまちへ出ようと行動を起こすことになりました。会社では誰にも負けない専門性を持っていても、地域のことをはじめの一步からでした。ボランティア活動

最初は技術的なお手伝いで関わったFM西東京では、シニアプロジェクトのボランティアアシスタントとして番組のパーソナリティを務めることになりました。多摩六都科学館では子どもたちの体験活動や工作教室のサポートを行い、新たな世界に踏み出しました。仲間との出会い

「保谷混声合唱団」にも参加、

始まりは公民館で

新町在住の細井隆さんは、定年を迎え、地域で何か始めたいと思っていた矢先、市報に掲載されていたサークルの会員募集の記事と出会いました。初めて参加したのは、谷戸公民館の絵画サークル「十二月会」。入会して6、7年が経ちますが、講師の指導のもと、油絵、水彩画、パステル画と、自由に描けるスタイルに魅力を感じています。その後、田無公民館の主催講座から立ち上がったスペイン語のサークル「グルポデエスパニョール」や、「ボタニカルアート同好会」にも所属することになった。



グルポデエスパニョールのみなさん、一番右が細井さん

「活動の後は皆さんで食事をしながらのおしゃべりも楽しみのなっています。サークルでの学びを、人との触れ合いの中で広げていく。そんな広がりの中から、吸収できるものは大きいです」と語る細井さんは、田無公民館の利用者連絡会の立ち上げにも携わっていて「会の向かう先はまだよく見えませんが、まずは参加してみようと思えます。集まりの中で、よりよい公民館になっていけばいいのでは」と語ります。

地域で活動するとは

そんな細井さんに、定年後地域で活動することの意味を聞き

「現役を退くとは、それまで培ってきた職域でのつながり、職縁が薄くなるということだと思います。それに代わるものとして、地域でのつながり、地縁があると思うのです。仕事が終わり、新しいことが始まるということではなく、新しいことを始めるという意識が大切ですね。自らが積極的に始めるからこそ、道が開けるのだと思います」と優しい笑顔で語る力強い言葉は、長い職業人生の中で培われたものだと感じました。

定年退職後の心得

- 一、定年後の舞台は、地域社会にあり
- 二、地域デビューの第一歩は、公民館の広き門から
- 三、仕事人間の肩書を捨てよう!
- 四、時には教師、時には生徒の学びあり
- 五、とにかく、まちにでよう!

わが街をもっと知りたくて

「こごだてフェスタ@西東京」

「子連れだから出来る!」

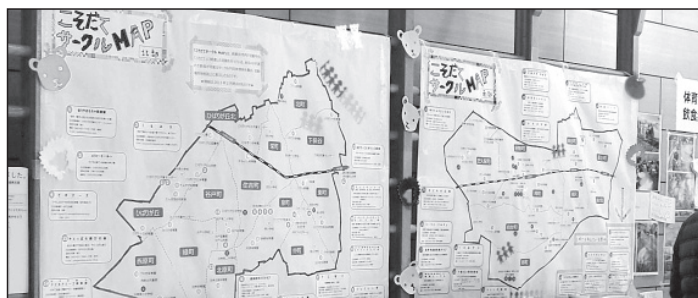
2月24日(日)、春一番を思わせる強風を押しつける熱気が田無小学校の体育館に満ちあふれていました。そこでは「第2回こごだてフェスタ@西東京」が開催され、たくさんの子連れが詰め掛けていました。

西東京市の子育て情報が一目で分かり、子育て中のお母さん達が一同に集まるイベントを開催したいという想いを形にしたのが「こごだてフェスタ@西東京」です。

市内に住む乳幼児を育てている親子(主に母親)や、子育て支援をしている団体を中心に実行委員会(西東京市共催)を立ち上げ、第1回は2012年3月に開催されました。

そして、第2回目となる今回も有志が集まったお母さん達を中心に、工作、読み聞かせ、サロンなど団体による出展ブースやステーション発表、医療関係や市の関連部署による相談コーナーなど、多彩なイベントがあり、子育て中の家族が気軽に参加し、楽しみながら様々な子育て情報を取得することが出来る内容となりました。

開催するにあたっては、家事・育児・仕事をこなしながらの準備となり、大変な時期もありましたが、「フェスタを開催して、子育て事情をみんなに届けたい!」というお母さんたちの強い想いと、色々な面で手厚いサポートや協力をしてくれた地域活動の先輩方やボランティアの皆さんのおかげで、困難を乗り越



市内を北部と南部に分けて、子育てに関連する団体を紹介する「子育てMAP」

越えることができました。それだけに、開催までこぎつけられた喜びはひとしおだそうです。幼稚園児の母でもある実行委員長の藤田さんは「フェスタを通じて、縦や横の幅広い、つながりの大切さやありがたさを実感することができました。このつながりを、これから子育てを始める新しい世代の人たちにも受け継いでもらいたい。次回開催は未定ですが、ぜひイベントの作り手側としても、たくさん親子に参加してもらえたら嬉しいですね。『子連れだから出来る!』ではなく、『子連れでも出来る』『子連れだからこそ出来る!』そんな想いを持って、今後も子育てを楽しみながら、フェスタを通じて子育てのしやすい地域作りを目指したいです」と語ってくれました。